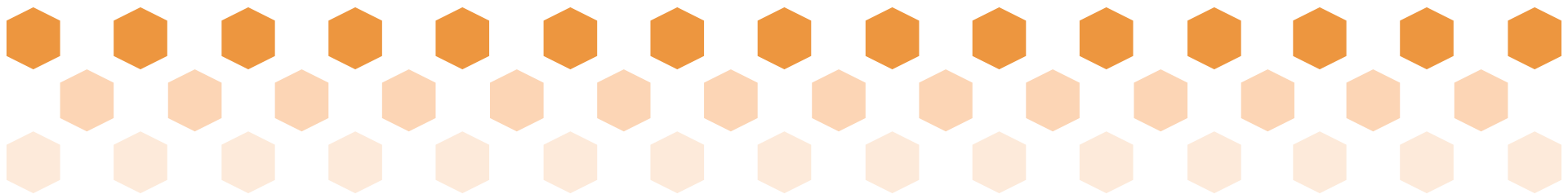


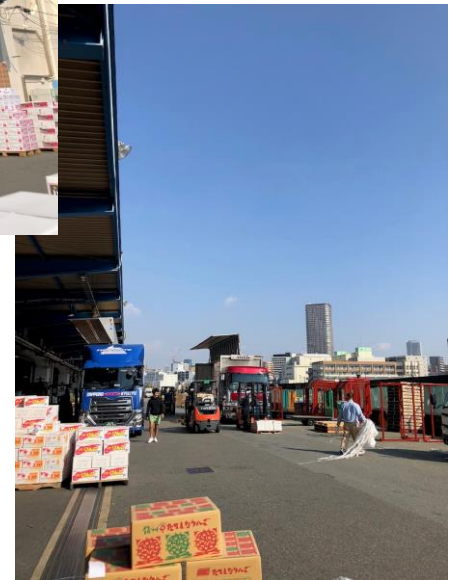
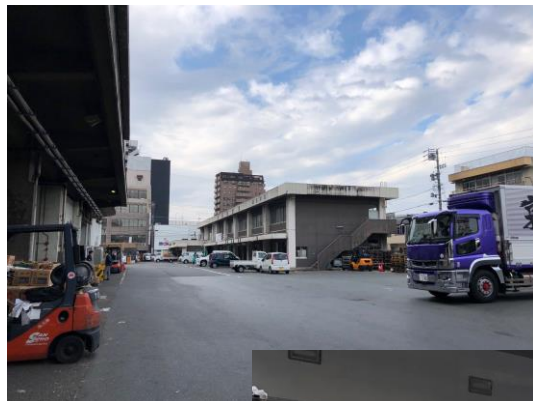
パレット導入状況に関する 定点観測調査の結果報告 (名古屋市中央卸売市場本場) (大阪市中央卸売市場本場)



令和4年12月
農林水産省 大臣官房
新事業・食品産業部 食品流通課

1. パレット導入の定点観測調査

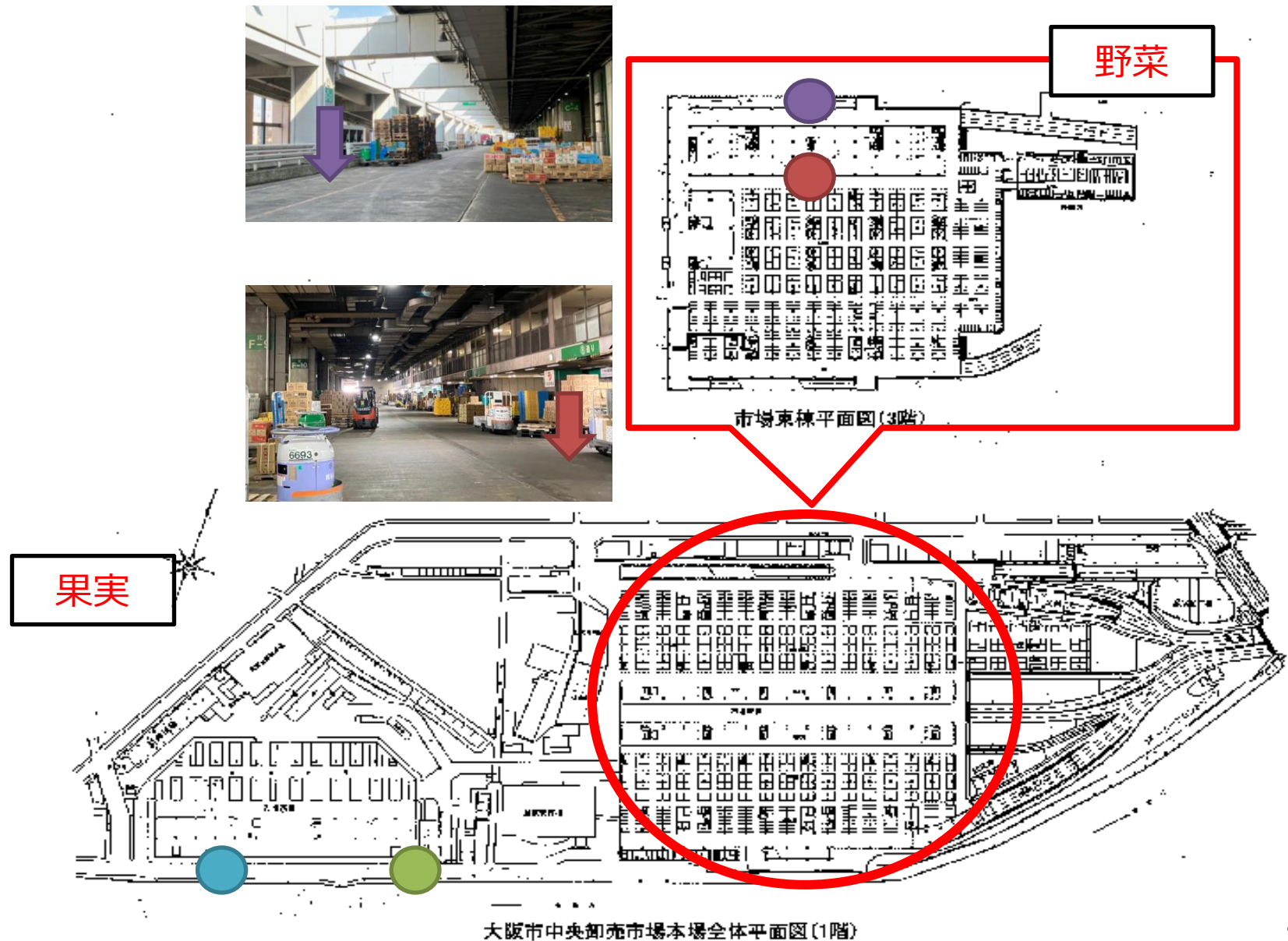
- 調査対象：搬入トラックのパレット積み（木製、プラスチック）、ばら積みの状況
- 調査方法：目視
- 調査日時
 - ・名古屋市中心卸売市場本場：令和4年10月31日(月)14:00～17:00
 - ・大阪市中央卸売市場本場：令和4年11月4日(金)13:00～16:00
- 調査人数：4名（食品流通課職員）



2. パレット導入の定点観測調査（名古屋本場）



2. パレット導入の定点観測調査（大阪本場）



3. パレット導入の定点観測調査の結果（その①）

○観測したトラック台数

- ・名古屋本場：53台（野菜39、果実14）
- ・神戸本場：37台（野菜23、果実13、混合1）

名古屋市本場

	野菜	果実	野菜・果実	総計
北海道	16			16
青森		1		1
岩手	1			1
秋田	1			1
茨城	2			2
長野	8	3		11
岐阜	1	1		2
静岡		2		2
愛知	9	3		12
三重	1			1
和歌山		2		2
宮崎		1		1
海外		1		1
総計	39	14		53

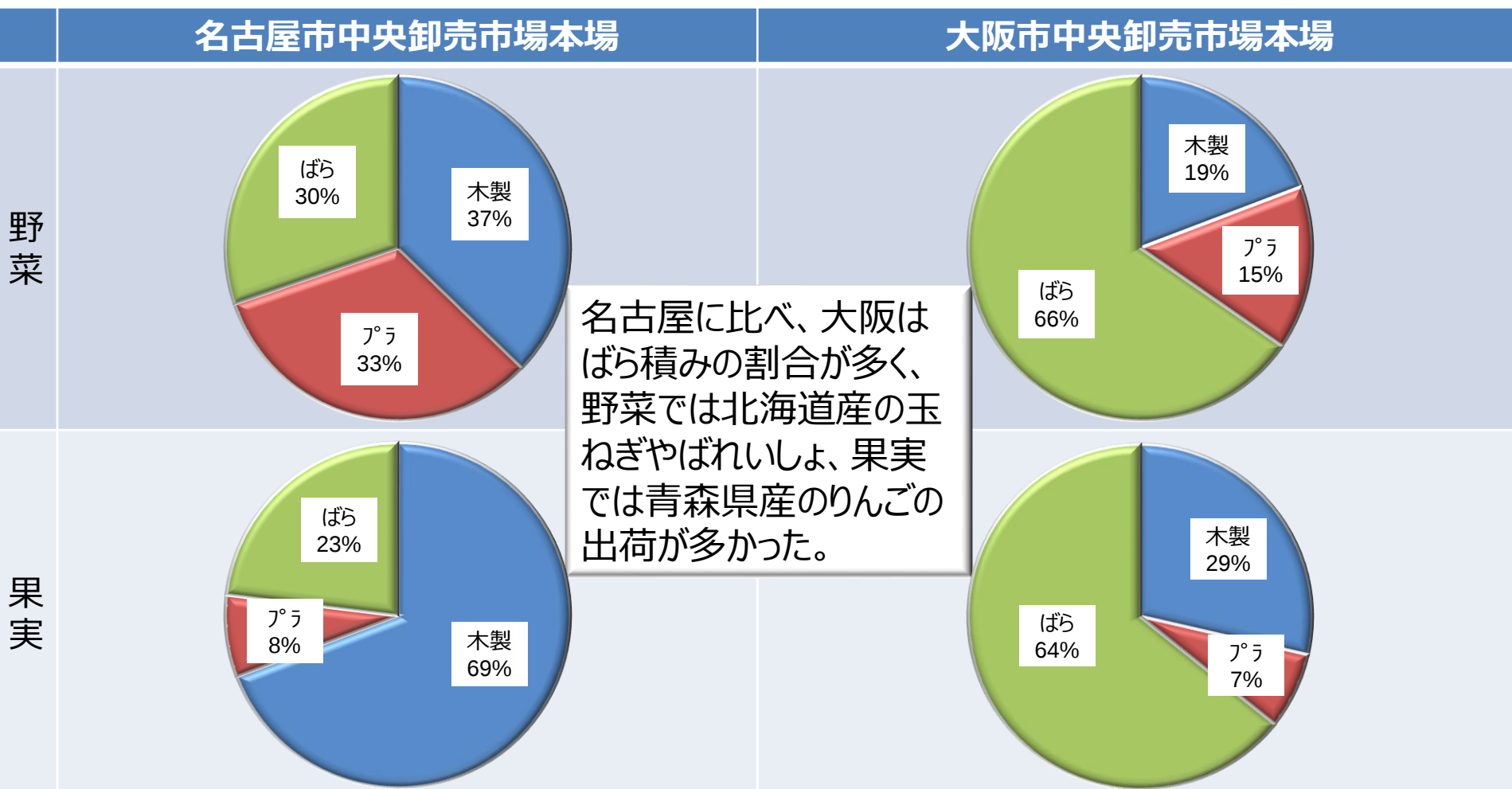
大阪市本場

	野菜	果実	野菜・果実	総計
北海道	10			10
青森	2	5		7
岩手	1			1
秋田		1		1
山形	1	1		2
長野	1			1
静岡		1		1
愛知	1			1
兵庫	1			1
奈良		2		2
和歌山		2		2
徳島	1			1
長崎	1			1
熊本	1	1		2
宮崎	2		1	3
鹿児島	1			1
総計	23	13	1	37

3. パレット導入の定点観測調査の結果（その②）

○野菜と果実のパレット化率

- ・ 名古屋本場：野菜 70%（キ37.2%、プ32.6%）、果実 77%（キ69.2%、プ 7.7%）
- ・ 大阪本場：野菜 34%（キ19.2%、プ15.4%）、果実 36%（キ28.6%、プ 7.1%）

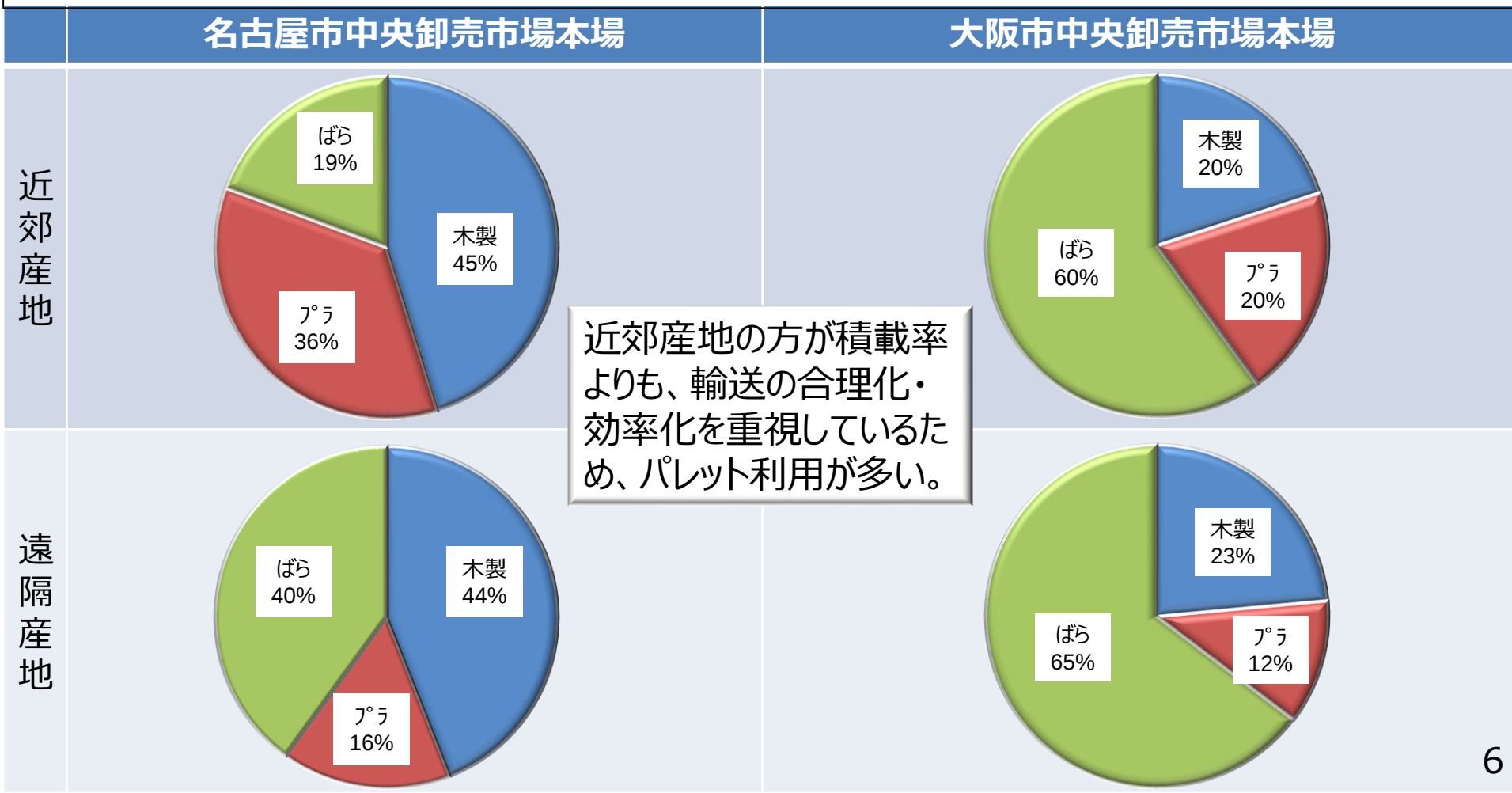


3. パレット導入の定点観測調査の結果（その③）

○野菜の近郊産地と遠隔産地のパレット化率

- ・名古屋本場：近郊 81%（キ45.2%、プ35.5%）、遠隔 60%（キ44.0%、プ16.0%）
- ・大阪本場：近郊 40%（キ20.0%、プ20.0%）、遠隔 35%（キ23.5%、プ11.8%）

※近郊産地とは名古屋においては、山梨、静岡、長野、富山、石川、福井、愛知、岐阜、三重、滋賀とし、大阪においては、福井、三重、滋賀、京都、奈良、和歌山、大阪、兵庫、岡山、香川、徳島で整理し。それ以外は遠隔産地として整理。



4. 観測調査で確認できたこと（名古屋市本場）①

- 荷物の受入れは19時から24時までがピークとなっているが、夜間のピークを避けるため、13時頃から搬入するドライバーもいる。また、観測調査を行った14時から17時までの時間は荷物の搬出も多く、搬入、搬出作業が重なるなどトラックとフォークリフトが行きかう場所もあった。
- 場内物流に関するルールの手定めがなく、トラックやフォークリフトが激しく行きかう中でも上手く搬入、搬出が行われているのは、卸売業者、仲卸業者、物流事業者の経験と技術によるもの。
- 調査日については、トラックの荷待ちによる待機、場内や場外周辺道路での渋滞は特になかった。（搬入、搬出のピーク時においては場外周辺道路まで及ぶ渋滞はないものの、場内での荷待ちによる待機はあるとのこと。）
- 青果棟 1 階では、パレット積みトラックが多く、フォークリフトを使用しての荷下ろしであったため、回転はよかったが、2 階はばら積みトラックやコンテナが多く、手荷役での作業であったため、回転は悪かった。
- パレット積みされた荷物の荷下ろしは、基本的に卸売業者 2 社の従業員が操作して行っている。なお、仲卸業者が販売や転送などのため搬出する荷物については、仲卸業者の従業員のほか、トラックドライバーが自分でフォークリフトを運転して荷積みしている。

4. 観測調査で確認できたこと（名古屋市本場）②

- 北海道産の玉ねぎ、ばれいしょがばら積みのコンテナ輸送で出荷され、トラックドライバー自らが2時間以上の時間をかけて荷下ろししているところもあった。
- 仲卸棟でのスペースが不足しているためか、卸から購入した荷物をそのまま卸売場に留置しているものも多く、搬入する荷物の置場の確保が困難な様子であった。
- 仲卸による他市場への転送や量販店への納品による搬出では、ほとんどがパレットを使用していた。転送先や納品先では、フォークリフトを使用してパレットごと下ろす場合や、荷物だけを手荷役で下ろす場合の両方がある。また、量販店向けにかご車の利用も一部であった。



4. 観測調査で確認できたこと（大阪市本場）①

- 荷物の受入れは夜間から深夜にかけてがピークとなっているが、観測調査を行った13時から16時までの時間は荷物の搬入よりも、搬出の方が多く、搬入、搬出作業が重なるなど混雑していた。
- 野菜では、置場に余裕のある昼の時間帯に搬入するよう卸売業者から産地へ依頼している。なお、果実は昼の時間帯でも置場に余裕がない。
- 調査日については、トラックの荷待ちによる待機、場内や場外周辺道路での渋滞は特になかった。渋滞の緩和に向けて、商流と物流を分離する取組も進められていた。（近隣住宅地からの苦情もあるため、現在は搬入、搬出のピーク時における場外周辺道路の渋滞はないとのこと。）
- 卸売業者の不在により、置場に到着していながら、1時間以上の待機が発生したケースもあった。
- パレット積みされた荷物の荷下ろしは、基本的に卸売業者2社の従業員が操作して行っている。なお、仲卸業者が販売や転送などのため搬出する荷物については、仲卸業者の従業員のほか、トラックドライバーが自分でフォークリフトを運転して荷積みしている。
- 北海道産の玉ねぎやばれいしょ、青森県産のりんごがばら積みで出荷されており、トラックドライバー自らが2時間以上の時間をかけて荷下ろししているところもあった。
- ばら積みの荷下ろしは、トラックの荷台でトラックドライバーが手作業で品目・等級別にパレタイズし、卸売業者がフォークリフトでそれを荷下ろししていた。なお、パレットの手配は卸売業者だった。

4. 観測調査で確認できたこと（大阪市本場）②

- トラックは、パレット積みかばら積みかにかかわらず到着順に荷受けしている。今回の調査では確認できなかったが、先頭に荷量の多いばら積みトラックがあると、全体が大幅に遅れるため、パレット積みとばら積みで荷下ろし場所を分けられないか検討中とのこと。
- フォーク型パレットチェンジャーやクランプフォークリフトを導入しているが、箱の強度が不十分な場合や、後者はばら詰めの場合使用できないため、パレット積みの荷物であっても半数以上は手作業で積み替えている。
- 仲卸店舗のスペースが不足しているためか、卸売業者から購入した荷物をそのまま卸売場に留置しているものも多く、搬入する荷物の置場や動線の確保が困難な様子であった。
- 仲卸による他市場への転送や量販店への納品による搬出では、ほとんどがパレットを使用していた。使用するパレットの一部ではレンタルパレットが使用されていた。

